

高津区おはなしアーカイブ

●関口 務 (せきぐち つとむ)さん

昭和16年生まれ 73歳

川崎市高津区末長在住



◆どんな子ども時代を過ごされたか

終戦のときは、4歳でした。姉1人に私で、私の下に妹と弟が1人ずつで4人兄弟です。当時は、幼稚園というものがなく、近くのお寺に託児所がありましたが、祖母がいたのでお世話になりませんでした。

小学校は家から歩いて20分の橘小学校に通いました。子どもながら、どこへでも歩いていきましたよ。私の母の実家の犬蔵や、今の聖マリアンナ病院くらいまでなら歩いた記憶があります。時間にして2、3時間くらいですかねえ。

電車はこげ茶の南武線や溝の口までの大井町線がありましたが、子どもだから乗り方

を知らないし。乗ったのは高校生ぐらいになってからです。

◆どんな遊びがありましたか

何と言っても、「ターザンごっこ」ですね。「熊の森」という近くの山にターザンの木や江戸見桜の木がありました。高津区の資料にもありますが、ターザンの木は、太い蔓がからまって子どもがぶら下がるのに、丁度良かったのです。とにかく子どもがたくさん集まりました。江戸見桜は現在は3代目でしょうか。

終戦後の遊びは、防空壕の中の迷路です。落とし穴も作りました。くらやみの中で追いかけて2人が正面衝突して顔から火花が散って、なんだか鼻のあたりがヌルヌルするなあと外へ出たら、2人とも鼻血を流してるんですよ(笑)。防空壕の中には、一部日本光学の倉庫としてレンズやベアリングなどが隠されていました。戦後は、中で業者が食用のウサギも飼っていた時期もありました。

◆小学校の思い出は

いろいろな先生がいました。中でも思い出に残っているのが、軍隊上がりのW先生です。このW先生には、とにかくビンタで張り倒されました。

授業は子どもが多かったので、一時期午前午後の2部制の時もありました。先生も忙しかったと思います。

◆中学校の思い出は

橘中学に通いました。第2期生です。入学したといっても、新築校舎だけで、グラウンドはガタガタ岩だらけで、私たちが整備しました。1クラスは50人ぐらい、女子がほんの少し少なかったけど、男女半々ぐらいですね。

◆高校時代はいかがでしたか

機械が好きで、エンジニアになりたいという夢がありました。父も将来、技術を身につけた方が良く、私が農業を継がないことに反対しませんでした。

当時はアメリカを目標に、日本の経済発展は、凄かったですからね。

大田区の工業高校の機械科に進みました。

◆町の様子は

周りはほとんど農家でした。田んぼで米を作り、畑では野菜や麦を作りました。田んぼが足りないので、畑でも作れる米・陸稲(おかぼ)を作りました。

お茶は畑の周りに植えたので末長では30軒ぐらいに茶畑がありました。

日本光学の社員寮が満州からの引き上げ者の寮になり、商店は「しぶや商店」だけです。いわゆる何でも屋さんで、酒、食料品、薪、練炭、豆炭などを売ってました。

そこで売ってたお菓子で思い出すのは、紅梅キャラメルです。今のグリコキャラメルと同じ感じですが、中に巨人軍の水原茂

監督や川上選手や青田選手の野球カードが入っていましたね。値段は10円くらいだったと思います。

溝の口の今の東急ストアのあたりには闇市の雰囲気が残っていました。まだ、少し残っているところもありますよね。

◆どんなご家族でしたか

祖父母、両親、子ども4人の8人全員で農家をしてました。杉山神社の上の畑で、肉や魚以外はすべて自給です。食生活は良かったですよ。野菜など出荷するときに出るクズ野菜まで全部食べれましたから。

田んぼを耕す牛も飼ってました。祖父から聞いた話ですが、牛も毎日こき使われると、疲れて餌を食べずにハンストを起こすらしいのです。そのときに牛小屋のトタン屋根から雨に見せかけて水をかけると、牛が「ああ、明日は雨だから休みだ、仕事は無しだ」とばかりに餌を食べ始めると言っていましたよ(笑)。

牛のほかは、ウサギ、鶏を飼ってました。毎朝、自宅用に卵を取って食べました。

関口家の本家は徳盛舎で、徳盛舎牛乳という銘柄の牛乳を売ってました。その牛乳は搾って冷やす前にすぐ飲むと、とても美味しかったです。当時は、自動車があったのは、徳盛舎だけだと思います。私たちは、自転車ですよ。でも、やはり歩きましたね。

◆当時のご自宅の様子は

かやぶき屋根で、8人家族にしては間取りが広がったです。台所、物置、母屋など平屋の1つ屋根の下にありました。家は明治時代からのものでしたが、関東大震災のときに、30度ぐらい傾いても、倒れなかったようです。私が高校生になってから建て替え、今に至ってます。当時の建築としては、最高に丈夫な建材を使ったと聞いてます。檜で作られている台所など、煮炊きで燻されて、ますます木が強くなったようです。

井戸水は今もあります。市内の災害時の指定の水になっていましたが、3.11の大地震のときは、揺れてにぎり水になってしまいました。

◆祭りの変遷は

昔は、末長の青年団が、杉山神社で舞台を作り、境内で田舎芝居もしました。神社から坂の下まで、遠々と出店が続きました。今は、神事だけが神社で、運営は町内会が主体です。以前はカラオケ大会や歌手を呼んだりしましたが、子どもたちには人気がなく、高齢者しか来ませんでしたので、子ども主体の祭りにしようと、ジャグリング、手品やバルーンのパフォーマーを呼ぶようにしました。すると露天商も集まり、そのスタイルで10年やってきました。残念だったのは、猿回しを呼びたくても、動物愛護の関係で夜は出演してもらえませんでした。

◆この地に生まれて今、思うことはありますか

40歳代で設計事務所を立ち上げ、20年間は社長業でした。今年の4月に大病で退任するまで、町内会長も11年弱務めました。

今思うのは、平和な日本に生まれて、都会で交通の便の良い川崎市に生まれて、本当に良かったと思っています。

溝の口は、昔はガラが悪かったですが今は交通が発達し、学校やオシャレの店も増えました。女子大生が多いと男の子も集まりますもんね(笑)。

母は犬蔵出身だし、妻も小杉出身、皆、地元のようなものです。

関口という名前はこのへんに多いのですが、寺の過去帳を調べたくても寺が空襲で焼けてしまい、わからないのが残念です。

(平成26年7月30日実施)